

## 高幡地域アクションプランの進捗状況等について

H24. 9. 7  
高幡地域本部

## 1 地域アクションプランの実施状況（総括）

## (1) 総評

2期目の産業振興計画がスタートし、それぞれのAPが進められる中で、大きく動き出したAPが出てきている。一方で、これまでの取り組みにより各APの課題が絞られてきた。

津野町のアンテナショップ「満天の星」が4月11日にオープンし、7月末までに年間目標の約8割の売り上げを達成している。

四万十町の海洋堂ホビー館は、オープン1周年を迎え、24年度の入場者数が4カ月で約2万6千人と年間目標の半数を超え、さらに企画展示・体験機能の向上を行う。

これらの大きく動き出したAPを中心にAPの関係者の意識の向上や、APにはなっていないものの民間事業者による商人塾やMBAへの参加者も多くなっており、「産業振興」への意識が高まってきている。

また、地域への産業振興計画の浸透により、新たなAPとなる動きもいくつか出てきている。

## (2) 具体的な動き

## ① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>まとまりのある産地づくり</p> <p>■No.1 地域基幹園芸品目の生産振興と農家の所得向上（須崎市、中土佐町、津野町）</p> <p>■No.2 中山間地域での持続可能な農林業経営の確立（梶原町、津野町）</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地検討会・目慣らし会等（16回開催）</li> <li>・栽培現地実証圃の調査・検討（7ヶ所）</li> <li>・IPM技術実証圃の調査・検討（7ヶ所）</li> <li>・県外への消費宣伝（6回：JA園芸部）</li> <li>・重油代替加温機の実態調査の結果から、次園芸年度でより詳しく、調査範囲を広げて検討を行うこととなった。</li> <li>・天敵導入の関心の高まりで、栽培技術の改善等にも興味向けられるようになってきた。</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>個々の農家の所得の安定化 ⇒栽培技術の改善や重油高騰対策の継続実施</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培指導 現地検討会3回、実証圃設置5カ所、個別巡回指導等29回</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>平坦地なみの所得を上げる農家の育成 中山間地域の園芸産地の維持 ⇒栽培指導の継続実施</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 3 基幹品目等の維持・発展による地域農業の活性化(四万十町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地検討会の開催 ミョウガ 1回、ピーマン 2回、ニラ 4回、露地ショウガ 2回</li> <li>・JA と連携した品目別経営分析説明会の開催 9回(ミョウガ、ピーマン、ニラ、ショウガ 他) 参加率 28%</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>重油高騰による所得の減少 ⇒木質ペレットボイラーの導入(6基)</p>
<p><b>森を活かす取組</b></p> <p>■No. 14 「四万十ヒノキ」のブランド化を主体とした地域森林資源の有効活用(中土佐町、四万十町)</p> <p>■No. 15 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用(梶原町)</p> <p>■No. 16 「1億円産業の復活」をスローガンとする津野山産原木シイタケの産地化の推進(梶原町、津野町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十ヒノキブランド化協議会幹事会開催(6/1)</li> <li>・外商活動 98回(県内 53回、県外 45回)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体商標登録の対象品目や基準づくり ⇒四万十ヒノキブランド化協議会での検討と実行</li> </ul> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業活動延べ 28回(県内 13回、県外 15回)</li> <li>・ペレット生産に関する協議(4回)</li> <li>・製材品販売量 713m<sup>3</sup>(うち F S C 認証材 267m<sup>3</sup>) (6月末実績)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ペレット生産の強化 ⇒おが粉製造機の導入を検討</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県椎茸品評会で梶原の新規生産者が金賞受賞</li> <li>・全農全国椎茸品評会で地域から初めて全農理事長賞を受賞</li> <li>・H23 繰越事業であるモデルほだ場の整備実施</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>産地化に向けた体制づくり ⇒JA 主催による 1億円に向けた協議</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地域の特産品を活用した商品づくり</p> <p>■No. 19 シイラ加工の生産体制の強化</p> <p>■No. 20 シイラ加工食品の生産拡大 (四万十町)</p> <p>■No. 24 「中土佐町のうまいもん食わしちゃん」商品開発プロジェクト(中土佐町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「四万十マヒマヒ竹輪」が農林水産大臣賞受賞 (第64回全国蒲鉾品評会)</li> <li>・新パッケージの「四万十マヒマヒ竹輪」販売開始5/14</li> <li>・販売実績：94,000本(7月末実績)3,360千円 ※H23 575,000本(15,240千円)</li> <li>・興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合の販売実績 売上高：3,135千円(6月末実績) ※H23 販売実績：8,834千円(前年対比119.7%)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>原材料の確保及び冷凍保存のしくみづくり 競合他社製品との差別化 ⇒農商工連携事業の活用及び関係機関の連携強化</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品の開発(土佐塩麴、しょうがの恋、楽でしょうが)カフェ新メニュー(焼きラーうどん(塩麴味))</li> <li>・ファーストフード店売上実績：1,400千円(6月末実績) 全体の売上実績：7,001千円(6月末実績) ※H23 売上実績：22,566千円(計画目標23,250千円)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>ファーストフード店の経営安定 ⇒産業振興アドバイザー制度の活用等</p>
<p>6次産業化への取組等による拠点ビジネス</p> <p>■No. 23 久礼の浜屋敷整備事業 (中土佐町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久礼新港背後地を活用し、温泉や直販所、レストラン等多機能施設の整備を目指して取組を進めている。</li> <li>・基本設計及び実施設計委託業務：6月補正で承認</li> <li>・避難路測量設計委託発注(契約7/4 工期7/4～10/1)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波避難対策 ⇒避難路の整備、町全体の津波避難対策の中で検討</li> </ul>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 26 津野町地産地消・外商販売戦略(津野町)</p> <p>■No. 27 四万十町拠点ビジネス体制の強化(四万十町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工所・アンテナショップ「満天の星」オープン 4/11 売上高：80,493千円(7月末実績)</li> <li>・生産者会の発足(4/19)</li> <li>・販売会議・経営会議・直販所連絡会・満天の星定例会での売上高の分析・改善強化などを実施</li> <li>・直販所(6ヶ所、満天の星の直販部門含む) 売上高：56,628千円(対前年比127.3%)(7月末実績) ※H23売上高：137,791千円(対前年比101.2%)</li> <li>・新十津店「風車のまちの台所」8/18オープン</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直販所の野菜等商品が少ない ⇒7月に生産者への説明会を実施</li> </ul> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四万十町拠点ビジネス運営協議会設立(5/1)</li> <li>・売上高：66,820千円(5月末実績 前年対比103.9%) ※H23売上高：392,525千円(前年対比105.3%) 道の駅あぐり窪川：243,564千円(前年対比112.5%) 松葉川温泉：148,127千円(前年対比99.4%)</li> <li>・しまんとマルシェ「四万十の蔵」7/28オープン</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施主体の経営力・体制の強化 ⇒産業振興アドバイザー制度、土佐MBAの活用等</li> </ul>
<p>中心市街地の賑わいづくり</p> <p>■No. 21 須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業(須崎市)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街角ギャラリー、旧三浦邸の改修案作成委託</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SAT構想の焦点の絞り込み ⇒須崎市役所でSAT構想の再検討</li> <li>・街角ギャラリー、旧三浦邸の改修 ⇒市場周辺や富士ヶ浜と一体的に再検討</li> </ul>
<p>滞在型、体験型観光の推進</p> <p>■No. 28 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備(須崎市)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊研修の開催</li> <li>・民泊受入見込みの調査実施</li> <li>・教育旅行の受入 4校、851人</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊受入世帯の拡大 ⇒民泊研修への参加者拡大</li> </ul>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 30 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 (梶原町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社への営業活動 東京(4/18-20)、東京(5/14-15)、福岡・広島(6/5-6)、京阪神(6/20-22)</li> <li>・愛媛県のイベント参加によるPR 松山春まつり 4/8、砥部焼まつり 4/21~22</li> <li>・主要宿泊施設宿泊者数：2,671人(対前年比：111.0%) (7月末実績)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「龍馬脱藩の郷」を継続活用した誘客活動の強化 ⇒H25の「梶原千百年物語り」のPR実施</p>
<p>■No. 31 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい特産市でのPR(5/27)</li> <li>・アンテナショップ職員の観光研修実施(2回延べ6人)</li> <li>・愛媛県南予地方へのPR(4/27)</li> <li>・主要宿泊施設宿泊者数：1,878人(対前年比：100.4%) (6月末実績)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>県外への情報発信の強化 ⇒10月に津野町で開催される全国源流サミットでのPR実施</p>
<p>■No. 32 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数25,669人(7月末実績)</li> <li>※オープン以降の入館者数： 114,421人(H23.7.9~H24.8.15)</li> <li>・企画展等の実施 ジオラマの世界展(7/7~9/24) 海洋堂ホビートレインフォトコンテスト(6/2~7/2) 日本家屋のミニチュア展(3/17~5/28) など</li> <li>※海洋堂かっぱ館オープン(7/7) 入館者数18,480人(H24.7.7~8.15実績)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋堂ホビー館を拠点とした滞在型観光のしくみづくり</li> <li>・受入体制の充実 ⇒観光協会をはじめとする関係機関や広域での連携強化、土佐旅セミナーや産業振興推進総合支援(ステップアップ)事業の活用</li> </ul>

②上記以外で特記すべき取組

取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 12 滞在型市民農園等を活用した四万十町の移住を受け入れやすい風土づくり(四万十町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H24年度は滞在型15棟のうち3棟が利用者交代</li> <li>・クラインガルテン四万十の入居状況 滞在型15棟 うち全棟入居 日帰型16区画 うち利用15区画 ガルデン利用者のうち1世帯が移住</li> <li>・お試し滞在施設運営開始 入居者実績2組(4/28~7/27、7/28~8/27)</li> <li>・HP空家情報更新 移住相談件数39件、移住実績2組4人(7月末)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の移住に繋がるしくみづくり ⇒地域住民との交流促進、サポート体制の整備</li> </ul>
<p>■No. 18 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進(中土佐町)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スラリーアイスを活用した「ぴんぴ」ブランドの構築開始 ロゴマーク等の商標登録(6月出願、受付連絡7/6) 「ぴんぴ鰹タタキセット」予約販売開始(5/1~) 108セット注文(6月末)</li> <li>・中土佐町観光物産センター設立(6/29)</li> </ul> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の方向性決定(収支計画及び体制づくり) ⇒観光物産センターの機能をふまえた関係機関の検討</li> </ul>

2 平成24年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
該当なし		

3 地域アクションプランの追加、修正、削除(予定)項目

[追加] 四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組

(概要) 四万十町大正地域に地域観光産業振興の核となるホテルを建設・運営することにより、地域資源の活用・地域雇用の創出・地域経済の活性化に繋げていく。

[修正] NO.15 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用(線表の修正)

[削除] 該当なし

#### 4 県民参画に向けた取組

##### ○第2期産業振興計画の説明

- ・地域資源活用共有会議で第2期計画の紹介
- ・高南地区農業改良普及推進会議で説明「みんなが主役 高知県産業振興計画」

##### ○土佐の産業おこし参加プラン募集の案内

- ・須崎商工会議所での説明
- ・市町広報紙への掲載に向けた調整  
(掲載：須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町)

##### ○産業振興計画シンポジウムへの参加案内

- ・地域アクションプラン事業者への案内（けんかま、ど久礼もん、満天の星等）
- ・地域団体への案内（JA土佐くろしお、JA津野山、須崎商工会議所等）

##### ○商人塾受講への働きかけ

- ・丸共味噌醤油醸造場、宮進商店、雲の上ガーデン、あぐり窪川：玉沖クラス
- ・四万十ドラマ：臼井クラス

#### 5 相談案件：3件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/4	雇用	水耕栽培や菌床シイタケの栽培による雇用の拡大
2	4/17	観光交流	建設業の新分野進出による観光交流の拡大
3	5/25	食品加工	須崎市内でうつぼを使ったパイの商品化などを行いたい。

追加項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
34 四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組	宿泊施設を整備し、そこを拠点に海洋堂ホビー館や海洋堂かっぱ館、奥四万十自然体験村構想等の地域資源を活用することで、通過型から滞在型観光へのシフトを図り、観光分野を産業として構築、四万十町の経済波及効果に繋げていく。	大正建設業(協)			<p>◆事業計画の作成及び関係機関との調整</p> <p>◆宿泊施設の整備</p> <p>◆商品開発及び販路開拓</p>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
<p>事業計画の作成及び関係機関との調整</p> <p>収益調査の実施と調査結果とふまえた事業計画の作成</p>						
<p>宿泊施設の整備</p> <p>ホテル建設</p> <p>ホテル運営</p> <p>体制づくりと人材育成</p>						
<p>商品開発及び販路開拓</p> <p>地域資源の掘り起こし及び地域との連携強化</p> <p>商品開発、宣伝(HP等宣伝ツールの作成)、販路開拓</p>						

有望素材シート（24年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十町	素材名	ウエル花夢、海洋堂ホビー館四万十、海洋堂かっぱ館、四万十川、温泉、奥四万十資源
		関連素材	道の駅、高速道路（延伸予定）

現状・課題	<p>&lt;現状&gt;</p> <p>人口減少および少子高齢化が進む中山間地域であり、主力であった農業や林業、建設業などの地域産業が衰退している。一方で、四万十エリアには、四万十川、温泉、道の駅（愛媛の三間道の駅～大正道の駅、十和の道の駅、道の駅あぐり窪川など）の充実した路線や、「海洋堂ホビー館」、「海洋堂かっぱ館」など西部地域を代表する観光施設、奥四万十自然体験村構想に位置付けられている景観等を有しており、体験メニューなどの観光資源も豊富である。近年、ミュージアムや景観を楽しむ観光客が増えており、地域外から訪れる人々を対象にした観光分野における産業づくりが望まれている。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が複数の観光資源をゆっくりと体験することができる地域の核となる宿泊施設が必要。</li> <li>・観光資源・商店街がうまく活用されておらず、観光が産業として成立していない（通過型の観光客が多い）。</li> </ul>
	<p>今後の方向性</p> <p>滞在型観光の核となる宿泊施設を整備するとともに、地域への経済波及効果を視野に入れて、宿泊施設を拠点に各関係機関との連携を強化して地域の豊富な観光資源をリンクし、観光客が体験、周遊することができる環境を整備し、中山間地域の活性化を図る。</p>

「有望素材」を活かした具体的な取り組み（案）

『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組
	関係市町村名	四万十町

事業の概要	<p>○四万十町大正地域に地域観光産業の核となるホテルを建設、運営し、そこを拠点に海洋堂ホビー館や海洋堂かっぱ館、奥四万十自然体験村構想等の地域資源を活用することで、通過型から滞在型観光へのシフトを図り、四万十町の経済波及効果に繋げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業収益調査を実施し、ホテルコンセプト、機能、運営方針、事業収支予想等をふまえた効果的な事業計画を作成。</li> <li>・ホテルの整備、運営</li> <li>・ホテルを核に地域の体験メニュー等と組み合わせ商品を作成し、通過型から滞在型観光にシフトする一役を担う。</li> </ul>
-------	--

事業主体等	【事業主体】	大正建設業協同組合
	【関係機関】	四万十町、観光協会、商工会等

主な内容・スケジュール	取組手順	事業実施【H24】	1年後【H25】	2年後【H26】	3年後【H27】	4年後【H28以降】
		事業収益調査 事業計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益調査の実施</li> <li>・事業計画の作成</li> </ul>			
	ホテル建設と運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテル建設、体制整備</li> <li>・人材育成研修</li> <li>・各関係機関との連携</li> </ul>	・オープン		
	販路開拓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の掘り起こし</li> <li>・地域との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験メニュー等商品開発</li> <li>・宣伝ツールの作成（HPの制作等）</li> </ul>	・HP運用開始		

指標・目標	項目	事業実施【H24】	1年後【H25】	2年後【H26】	3年後【H27】	4年後【H28以降】
		雇用数の増		15名新規		2名増
	【設定根拠】	【推計の考え方】 ホテル運営開始当初より、必要な専門スタッフを雇い入れサービス提供していく 2年後には、客室稼働率の増加を見込みスタッフ増強を行う				
	仕分	【考え方】				

総事業費等	総事業費	300,000千円	(うち25年度300,000千円)		
	(内訳 国： 県： 市町村： 千円 その他： )				
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県： 高知県産業振興推進総合支援事業			人的支援：
	その他：				
備考					

修正項目(案)

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
15 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用 《栲原町》  修正前	持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者への所得向上を推進する。	・栲原町森林組合 ・栲原町 ・ゆすはらペレット株	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な木材生産(H21~23) ◆異業種とのJVによる効率的な「森の工場」を運営し、木材生産量648m3(H22)を達成。</li> <li>・FSC認証材の拡充による製材品の販売強化(H21~23) ◆製材品需要が低迷するなか、継続的な営業展開によりFSC認証材の販売量1,015m3(H22)を堅持。</li> <li>・木質ペレットの安定供給(H21~23) ◆木質エネルギーを活かした循環型の森づくりの一環として、木質ペレットの安定供給で販売額24,406千円を確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年的な生産体制の確立と生産性の向上</li> <li>・新規顧客開拓のための専任の営業担当者が不在。</li> <li>・一般材との差別化を図るFSC認証材のPR強化</li> <li>・ボイラー等のペレット活用施設の普及とペレット品質の安定化(規格等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進</li> <li>◆営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充</li> <li>◆木質バイオマスの利活用の促進</li> </ul>



項目	事業の概要	事業主体	第1期計画(H21~23)の取組の総括等		主な内容
			総括	課題	
15 循環型社会の構築を促進するための森林資源の有効活用 《栲原町》  修正後	持続可能な森林経営のもとで計画的な木材生産を行い、FSC森林認証基準に基づき生産した木材製品の販売、及び林地残材等を活用した木質ペレットの製造・販売等を通じて、地域林業の中核となる森林組合の経営体質を強化し、森林所有者への所得向上を推進する。	・栲原町森林組合 ・栲原町 ・ゆすはらペレット株	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な木材生産(H21~23) ◆異業種とのJVによる効率的な「森の工場」を運営し、木材生産量648m3(H22)を達成。</li> <li>・FSC認証材の拡充による製材品の販売強化(H21~23) ◆製材品需要が低迷するなか、継続的な営業展開によりFSC認証材の販売量1,015m3(H22)を堅持。</li> <li>・木質ペレットの安定供給(H21~23) ◆木質エネルギーを活かした循環型の森づくりの一環として、木質ペレットの安定供給で販売額24,406千円を確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年的な生産体制の確立と生産性の向上</li> <li>・新規顧客開拓のための専任の営業担当者が不在。</li> <li>・一般材との差別化を図るFSC認証材のPR強化</li> <li>・ボイラー等のペレット活用施設の普及とペレット品質の安定化(規格等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進</li> <li>◆営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充</li> <li>◆木質バイオマスの利活用の促進</li> </ul>

第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進					木材生産量 (H19:0m3) (H22:648m3)	5,000m3
木材生産基盤(作業路・高性能林業機械)の整備状況に応じた生産システムの確立と生産性の向上を推進						
営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充					認証材の販売量 (H19:1,462m3) (H22:1,015m3)	1,600m3
県内外の新たな顧客の開拓を図り得る人員の配置と機会の活用を図り、FSC認証材を核とした木材加工品の販売拡充						
木質バイオマスの利活用の促進					ペレット原材料 (H22:2,465t) ペレット生産量 (H22:1,108t)	3,700t 1,500t
森林所有者等の生産意欲を増大し得る体制を整備しつつ、ペレット生産のための原材料の安定供給を図る						
木質ペレットを中心とした木質バイオマスの利活用の促進						



第2期計画					指標及び目標	
H24	H25	H26	H27	H28以降	指標	目標値(H27)
森林資源の成熟度や事業体の体質に即した計画的な木材生産の推進					木材生産量 (H19:0m3) (H22:648m3)	5,000m3
木材生産基盤(作業路・高性能林業機械)の整備状況に応じた生産システムの確立と生産性の向上を推進						
営業体制の強化と顧客へのPR促進によるFSC認証材の販売拡充					認証材の販売量 (H19:1,462m3) (H22:1,015m3)	1,600m3
県内外の新たな顧客の開拓を図り得る人員の配置と機会の活用を図り、FSC認証材を核とした木材加工品の販売拡充						
木質バイオマスの利活用の促進					ペレット原材料 (H22:2,465t) ペレット生産量 (H22:1,108t)	3,900t 1,700t
森林所有者等の生産意欲を増大し得る体制を整備しつつ、ペレット生産のための原材料の安定供給を図る						
木質ペレットを中心とした木質バイオマスの利活用の促進						
ペレット製造施設等の導入						